

資料 1

平成 29 年度 事業報告書

施設名	ページ
法人本部	1
あすなろ	10
更望園	11
鹿角苑	13
東山学園（児童）	14
東山学園	15
障害者センター	16
和光園	20
東恵園	22
東恵園地域生活支援センター	24

社会福祉法人花輪ふくし会

平成29年度 法人本部事業報告書

1 理事会・評議員会等の開催

改正社会福祉法の施行に則し、旧役員から新役員への円滑移行を進め、全ての業務執行決定や理事の職務執行を監督する機関としての理事会及び基本的事項の決議や理事等執行機関への牽制機能としての評議員会を適宜開催した。

業務執行者としての理事の意向を迅速かつ適正に事業に反映させるため、理事会は年6回（5月、6月、8月、11月、12月、3月）や理事の業務執行を評価、監督、決議する評議員会は年3回（6月～定時、9月、12月）開催した。

今年度の理事会は改正社会福祉法施行に伴う、新たな役員選任や理事長・業務執行理事選任、特定社会福祉法人としての会計監査人設置、社会福祉法第45条の13第4項第5号の規定に基づく内部管理体制整備（内部統制）関係の審議や決議が多くを占めた。

評議員会は、法や定款細則の規定に則した議題の審議や決議を通じて理事への牽制機能を発揮した。なお、評議員1名が年度末で退任したことから、3月の理事会において評議員選任議案及び評議員選任・解任委員会招集議案を決議し、4月初旬に選任をする。

改正法の規定に基づき、特定社会福祉法人となったことにより、会計監査人（監査法人）を選任し、通年で法人監事と連携の下、会計監査を実施した。会計監査人からの指摘や意見は、逐次各拠点の指導に生かし内部管理体制強化へつなげている。監事は、会計監査人と連携の下、会計監査の主体性を会計監査人へ移し、理事等の業務執行関係の監査へ指向して理事等への牽制機能をより高めている。次年度においては、新たな内部監査員監査も加え内部管理体制の強化に努める。

2 諸規程の見直し

本法人の諸規程の見直しに伴い定款の一部、就業規則、職員給与規程、経理規程、育児・介護休業等に関する規程の一部改正の他、内部管理体制整備に伴う関連規程類を各種制定し内部統制強化を図った。

定款は、基本財産取得に伴う所要の改正や県の基本財産処分認可を得て、旧和光園の遊休土地のその他財産への処分による改正を実施した。

就業規則関連ではの一部改正については、各事業所等における業務等見直しによる別表改正や育児介護休業法改正に伴う所要の改正を行った。また有期契約者の無期転換措置制度への対応を図り、職員給与規程の一部改正については、内部管理体制整備に伴う役職手当の改正や上位加算取得に伴う一時金に関する所要の改正を実施した。

3 社会福祉施設等施設整備

鹿角市地域介護・福祉空間整備等交付金により和光園、東恵園、月山の郷に防犯対策設備（防犯カメラ等）の整備を図り、防犯対策を強化した。

国の補正予算成立を受けて、年度末には、平成29年度障害児・者施設整備費補助金により、更望園、東山学園（児童・成人）、地域生活支援拠点おおだてのグループホーム3件及び多機能施設の防犯対策設備（防犯カメラ等）の整備を図り、防犯対策を強化した。

なお、地域生活支援拠点おおだての整備にあつては、大館市からの単独上乗せ補助金の交付を受けている。

4 公的補助金及び民間助成金

- ・平成29年度障害児・者施設整備費補助金（大規模修繕 防犯対策施設整備）

更望園、東山学園（児童・成人）、大館グループホーム（3件分 ショ、ミズキ、スミ）、ケアワークおおだて

- ・鹿角市地域介護・福祉空間整備等交付金（既存高齢者施設等の防犯対策強化）
和光園、東恵園、月山の郷
- ・平成29年度 公益財団法人日母おぎゃー献金基金施設助成金
障害者センター 児童通所多機能型事業送迎用車両購入事業助成
（日産 NV100 クリッパーリオ チェアキャブ 4WD 軽自動車1台）
- ・大館市 平成29年度社会福祉施設等施設整備費補助金
ショ・ケアワークおおだて、ミズキ、スミの防犯対策施設整備における上乗せ補助
- ・鹿角市認知症カフェ運営補助金
東恵園地域生活支援センター・月山の郷（認知症カフェ運営費（消耗品費等）補助
- ・鹿角市ふるさと名物ランド化促進事業補助金
就労センター（比内地鶏他、パッケージデザイン印刷用版下データ研究開発補助）

5 本部機能の強化

前年度より継続し、改正法の施行に則した法人本部のガバナンス強化に努めてきた。改正法の施行による、会計監査人設置や内部管理体制整備に伴う規程類の整備や虐待防止対策研修、内部監査員研修、管理職研修、IT統制研修会等を実施し問題点の改善や内部管理体制の整備に努めている。また、内部監査や数次の事務員会議を通じ、経理体制や会計処理業務の標準化（業務フロー）を推し進め内部統制体制等の改善と確実性の向上に努めてきた。次年度以降も継続して内部管理体制の整備と実効性の強化に努める。

4年目を迎えた給食総合管理センターは、献立作成業務は、概ね順調に運用しているが、各種情報処理業務においては、業務改善を要する課題もあり、継続して種々の改善を行い、費用対効果の向上を目指すものである。

介護職員初任者研修事業は6年目を迎え、開催時間を変更し、第1回研修は平日の夜間、第2回研修は今まで通り土日の開催とした結果、第1回研修（7/10～10/24）で12人、第2回研修（11/4～1/27）で14人、合わせて26人の修了者を送り出すことができ、地域における人材育成の貢献に寄与した。

各施設等における安全衛生体制強化の為、継続して本部に専門職員を配置し、毎月の衛生管理者会議を通じて各衛生委員との情報を共有し、専門性の向上及び強化を図ってきた。

法人職員研修についても、継続して本部の専任職員の下に一元的な教育体制及び研修計画を整備し職員の資質向上に繋げているほか、資格取得支援に資する学習会等も都度開催し職員の資格取得率向上に寄与している。

6 危機管理体制の強化

全国的な高熱での症状が少ないインフルエンザB型（当法人関係者の罹患者の8割）の大流行の状況を受け、感染症対策には、より一層の危機感を持ち、各施設・事業所が連携して感染症予防対策を最重要課題と位置付け、重点的に取り組んだ。

インフルエンザについては、全国的な予防ワクチンの供給不足のなか利用者及び職員のワクチンの接種に努め、各施設においては、散発的な利用者、職員（家族を含む。）の感染が散見されたが大規模な集団感染の発生は抑制することができた。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎に関しては、例年と比べ流行は小規模に推移し、懸念されていた集団感染に関しては生起せず、概ね各施設においての職員及び家族、利用者の

散發的な感染のみが散見された。

本年度の感染症対策及び危機管理体制については、予防措置と早期に適正な対応を図ることで法人全体で有効に機能を果たしたと考えている。

7 会議の開催状況

【理事会】

- 第1回 平成29年5月29日（旧役員）
 - 議案第1号 平成28年度事業報告の承認について
 - 議案第2号 平成28年度決算の承認について
 - 議案第3号 平成29年度定時評議員会の招集について
 - 議案第4号 理事、監事の選任について
 - 議案第5号 会計監査人の選任について
 - 議案第6号 平成29年度社会福祉事業資金収支補正予算の承認について
 - 第2回 平成29年6月23日（新役員） *招集手続きの省略の方法による
 - 議案第7号 理事長の選定について
 - 議案第8号 常務理事の選定について
 - 議案第9号 会計監査人監査の業務委託契約締結について
 - 議案第10号 理事、監事の選任について役員賠償責任保険の加入について
 - 議案第11号 社会福祉法人花輪ふくし会就業規則の一部改正について
 - 第3回 平成29年8月29日
 - 議案第12号 社会福祉法人花輪ふくし会 内部管理体制整備の基本方針について
 - 議案第13号 社会福祉法人花輪ふくし会定款の一部改正について
 - 議案第14号 社会福祉法人花輪ふくし会 就業規則の一部改正について
 - 議案第15号 社会福祉法人花輪ふくし会 育児・介護休業等に関する規程の一部改正について
 - 議案第16号 平成29年度社会福祉事業資金収支補正予算の承認について
 - 議案第17号 社会福祉法人花輪ふくし会 基本財産の処分について
 - 議案第18号 平成29年度第2回評議員会の招集について
- ※ 業務執行状況報告（理事長及び常務理事）**
- 第4回 平成29年11月28日
 - 議案第19号 社会福祉法人花輪ふくし会 定款の一部改正について
 - 議案第20号 社会福祉法人花輪ふくし会 就業規則の一部改正について
 - 議案第21号 社会福祉法人花輪ふくし会 内部監査実施規程の一部改正について
 - 議案第22号 社会福祉法人花輪ふくし会 文書事務取扱規程の一部改正について
 - 議案第23号 社会福祉法人花輪ふくし会 個人情報保護・利用に関する基本規程の改正について
 - 議案第24号 社会福祉法人花輪ふくし会 定年後の再雇用制度に関する規程の一部改正について
 - 議案第25号 社会福祉法人花輪ふくし会 契約職員雇用管理要綱の一部改正について
 - 議案第26号 社会福祉法人花輪ふくし会 事務決裁規程の一部改正について
 - 議案第27号 社会福祉法人花輪ふくし会 内部管理体制整備に伴う関連規程の制定について（理事職務権限規程、監事監査実施規程、コンプライアンス規程、ヘルプライン運用規程、情報公開規程）
 - 議案第28号 錦木ワークセンター拠点区分における不動産の取得について

議案第 29 号 就労センター拠点区分における八幡平クリーニング工場 事業所
改修工事の指名競争入札について

議案第 30 号 平成 29 年度社会福祉事業資金収支補正予算の承認について

議案第 31 号 決議の省略の方法による第 3 回評議員会の招集について

○第 5 回 平成 29 年 12 月 11 日

議案第 32 号 就労センター拠点区分における八幡平クリーニング工場 事業所
改修工事の工事請負契約締結について

○第 6 回 平成 30 年 3 月 28 日

議案第 33 号 社会福祉法人花輪ふくし会 就業規則の一部改正について

議案第 34 号 社会福祉法人花輪ふくし会 経理規程の一部改正について

議案第 35 号 社会福祉法人花輪ふくし会 職員給与規程の一部改正について

議案第 36 号 社会福祉法人花輪ふくし会 役割等級規程の一部改正について

議案第 37 号 社会福祉法人花輪ふくし会 退職金支給規程の一部改正について

議案第 38 号 社会福祉法人花輪ふくし会 職制規程の一部改正について

議案第 39 号 社会福祉法人花輪ふくし会 情報システム管理規程の制定について

議案第 40 号 平成 29 年度社会福祉事業資金収支補正予算の承認について

議案第 41 号 平成 30 年度社会福祉法人花輪ふくし会事業計画書の承認について

議案第 42 号 平成 30 年度社会福祉事業資金収支予算について

議案第 43 号 評議員候補者の推薦について

議案第 44 号 評議員選任・解任委員会の招集について

議案第 45 号 平成 30 年度内部監査における年度監査計画の承認について

議案第 46 号 施設長人事について

※ 業務執行状況報告（理事長及び常務理事）

【評議員会】

○第 1 回 平成 29 年 6 月 23 日（定時評議員会）

議案第 1 号 平成 28 年度事業報告の承認について

議案第 2 号 平成 28 年度決算の承認について

議案第 3 号 理事、監事の選任について

議案第 4 号 会計監査人の選任について

議案第 5 号 社会福祉法人花輪ふくし会役員及び会計監査人及び評議員の報酬
並びに費用弁償に関する規程の制定について

○第 2 回 平成 29 年 9 月 19 日（臨時）

議案第 6 号 社会福祉法人花輪ふくし会 定款の一部改正について

議案第 7 号 社会福祉法人花輪ふくし会 基本財産の処分について

○第 3 回 平成 29 年 12 月 8 日（臨時）*決議の省略の方法による招集

議案第 8 号 社会福祉法人花輪ふくし会 定款の一部改正について

【監事会】

○平成 29 年度決算監事監査

平成 29 年 5 月 8 日～5 月 17 日（延べ 6 日）

○平成 29 年度随時監事監査（預り金監査）

平成 29 年 9 月 21 日、22 日、26 日、27 日（延べ 4 日）

○平成 29 年度上半期法人棚卸

平成 29 年 10 月 2 日（障害者センター系、鹿角苑～悠遊工房）

- 平成 29 年度定期中間監査
平成 29 年 11 月 6 日～11 月 14 日（延べ 6 日）
- 監事会
平成 30 年 3 月 28 日（監事業務監査等協議）
- 平成 29 年度決算棚卸監査（会計監査人立会～就労センター拠点）
平成 30 年 4 月 1 日（障害者センター系各拠点、鹿角苑～悠遊工房）

平成 29 年度法人研修実施報告

<階層別研修>

No	研修名	開催期日	場所	参加職員・人数	講師
1	新任職員研修 1 回目	4/7～8	本部	新採用職員 20 人	内部
2	新任職員研修 2 回目	4/26～28	本部	新採用職員 17 人	内部
3	新任職員フォローアップ研修	6/30	本部	新卒採用職員 7 人	内部
4	初級職員研修	6/13	本部	契約職員 25 人	内部
5	新任事務員フォローアップ研修	7/13	本部	6 人	内部
6	新任事務員フォローアップ研修	7/18	本部	6 人	内部
7	中堅職員研修	12/5	本部	20 人	内部
8	中堅職員スキルアップ研修	2/23	本部	18 人	内部
9	指導職員研修	12/14	本部	24 人	内部
10	指導・管理職員研修	10/6	交流センター	52 人	外部

<専門研修>

No	研修名	開催期日	場所	参加職員・人数	講師
1	介護技術指導者養成フォローアップ研修	5/16	本部	8 人	内部
2	メンタルヘルス・セルフケア研修 Part1	5/23	本部	8 人	内部
3	初心者のための介護技術講座	5/30	本部	6 人	内部
4	自閉症等行動障害支援者養成研修（基礎Ⅰ）	6/6	本部	15 人	外部
5	初心者のための介護技術講座	6/23	本部	8 人	内部
6	職場のコミュニケーション力 UP 研修	7/9	コモッセ	42 人	外部
7	メンタルヘルス・セルフケア研修 Part2	7/27	本部	12 人	内部
8	文書作成研修	7/5	本部	31 人	内部
9	初心者のための介護技術講座	7/19	本部	8 人	内部
10	初心者のための介護技術講座	8/21	本部	7 人	内部
11	介護技術指導者養成フォローアップ研修Ⅱ	8/30	本部	10 人	内部
12	メンタルヘルス・セルフケア研修 Part3	9/28	本部	9 人	内部
13	職場研修推進担当者研修	9/8	本部	14 人	内部
14	自閉症等行動障害支援者養成研修（基礎Ⅱ）	9/15	本部	10 人	外部
15	初心者のための介護技術講座	9/20	本部	8 人	内部
16	初心者のための介護技術講座	10/25	本部	7 人	内部
17	メンタルヘルス・セルフケア研修 Part4	10/27	本部	9 人	外部
18	感染症予防対策研修	10/12	本部	32 人	外部
19	介護技術指導者養成フォローアップ研修Ⅲ	10/21～22	本部	15 人	外部
20	自閉症等行動障害支援者養成研修（実践）	11/2	本部	20 人	外部
21	自閉症支援ワークショップ	11/10	とわだセンター	10 人	内部
22	メンタルヘルス研修	11/15	本部	15 人	外部
23	モチベーションアップ研修	11/21	本部	21 人	外部
24	初心者のための介護技術講座	11/24	本部	8 人	内部

25	初心者のための介護技術講座	12/19	本部	9人	内部
26	職場研修推進担当者研修	12/26	本部	15人	内部
27	職場研修推進担当者研修	1/22	本部	15人	内部
28	初心者のための介護技術講座	1/25	本部	8人	内部
29	心とからだの健康づくり研修	1/26	本部	9人	内部
30	サービス管理責任者研修	1/30	本部	18人	外部
31	初心者のための介護技術講座	2/13	本部	7人	内部
32	職場研修推進担当者研修	2/20	本部	13人	内部
33	介護技術指導者養成フォローアップ研修	2/27	本部	15人	内部
34	自閉症支援ワークショップ	3/6	鹿角苑	10人	内部
35	初心者のための介護技術講座	3/13	本部	8人	内部
36	腰痛予防対策研修	3/16	本部	14人	内部

<自己啓発援助研修>

No	研修名	開催期日	場所	参加職員・人数	講師
1	介護技術フォローアップ研修	毎月2回 18:30～	東恵園地域生活支援センター	希望者 8人	内部
2	自閉症支援フォローアップ研修	毎月1回 18:30～	どまっこ	希望者 10人	内部
3	介護支援専門員資格取得バックアップ研修	毎月1回 17:00～	まちっこ	希望者 5人	内部
4	介護福祉士資格取得バックアップ研修	毎月1回 18:30～	どまっこ	希望者 3人	内部

<派遣研修>

No	研修名	開催期日	参加人数	場所
1	福祉施設長専門講座 通信教育・スクーリング	5月～2月	2人	神奈川県葉山町
2	自閉症支援のためのワークショップ	8/9～9/2	1人	北斗市
3	ナースिंगバリエーションに基づく生活支援技術セミナー 上級編	12/8～10	3人	京都市
4	TEACCH トピックセミナー	3/23～25	1人	倉敷市

平成 29 年度 法人メンタルヘルス活動報告

<メンタルヘルス研修>

No	研修テーマ	期日	参加職員数	講師
1	認知行動療法を活用したセルフケア	平成 29 年 5 月 23 日	8 人	内部
2	マインドフルネスを活用したセルフケア	平成 29 年 7 月 27 日	12 人	内部
3	身体技法を活用したセルフケア	平成 29 年 9 月 28 日	9 人	内部
4	交流分析を活用したセルフケア	平成 29 年 10 月 27 日	9 人	内部
5	コントロールから理解・共感へ	平成 29 年 11 月 15 日	14 人	外部
6	心とからだの健康づくり	平成 30 年 1 月 26 日	9 人	内部
7	腰痛予防対策研修	平成 30 年 3 月 16 日	15 人	内部

<相談件数>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	6	2	8	4	3	5	6	2	2	1	0	3	42
延べ人員	8	4	8	4	4	10	11	3	5	3	0	3	63

※休業 10 人

※職場復帰プログラム 7 人

※退職者 3 人

<中神先生相談>

月	6月	9月	12月	3月	計
人員	3	2	2	0	7

※相談者実人員人

・本人 2 人 延べ人 3

・上司 4 人 延べ人

平成29年度 公的補助金及び民間助成金一覧表

社会福祉法人花輪ふくし会

補助・助成金正式名称	補助・助成団体	交付決定年月日	事業費総額	交付決定額	自己資金額	対象施設	事業内容	容
鹿角市認知症カフェ運営補助金	鹿角市	平成29年5月12日	391,824	300,000	91,824	月山の郷	月山の郷認知症カフェ運営費補助	
鹿角市認知症カフェ運営補助金	鹿角市	平成29年5月12日	327,400	300,000	27,400	東惠園地域生活支援センター <small>東惠園地域生活支援センター</small>	東惠園地域生活支援センター認知症カフェ運営費補助	
ふるさと名物ブランド化促進事業補助金	鹿角市	平成29年7月12日	287,835	140,000	147,835	就労センター	比内地鶏地ハツケージデザイン印刷用紙下データ研究開発補助	
鹿角市地域介護・福祉空間整備等交付金	鹿角市	平成29年3月6日	1,185,840	592,000	593,840	和光園	既存高齢者施設等の防犯対策強化事業	
鹿角市地域介護・福祉空間整備等交付金	鹿角市	平成29年3月6日	578,880	289,000	289,880	東惠園	既存高齢者施設等の防犯対策強化事業	
鹿角市地域介護・福祉空間整備等交付金	鹿角市	平成29年3月6日	482,760	241,000	241,760	月山の郷	既存高齢者施設等の防犯対策強化事業	
平成29年度障害児・者施設整備費補助金	秋田県	平成30年3月16日	3,480,300	2,610,000	870,300	更望園	大規模修繕等（防犯対策施設整備）	
平成29年度障害児・者施設整備費補助金	秋田県	平成30年3月16日	1,723,680	1,292,000	431,680	東山学園（児童）	大規模修繕等（防犯対策施設整備）	
平成29年度障害児・者施設整備費補助金	秋田県	平成30年3月16日	2,392,200	1,794,000	598,200	東山学園	大規模修繕等（防犯対策施設整備）	
平成29年度障害児・者施設整備費補助金	秋田県	平成30年3月16日	913,680	685,000	228,680	大館GHSジョン・グ アウグおおだて	大規模修繕等（防犯対策施設整備）	
平成29年度障害児・者施設整備費補助金	秋田県	平成30年3月16日	826,200	619,000	207,200	大館GHミズキ	大規模修繕等（防犯対策施設整備）	
平成29年度障害児・者施設整備費補助金	秋田県	平成30年3月16日	574,560	430,000	144,560	大館GHSミズ 大館GHSジョン・グ アウグおおだて	大規模修繕等（防犯対策施設整備）	
平成29年度社会福祉施設等施設整備費補助金	大館市	平成30年3月20日	228,680	171,250	57,430	大館GHSジョン・グ アウグおおだて	社会福祉施設等施設整備事業（大規模修繕等）に係る経費	
平成29年度社会福祉施設等施設整備費補助金	大館市	平成30年3月20日	207,200	154,750	52,450	大館GHミズキ	社会福祉施設等施設整備事業（大規模修繕等）に係る経費	
平成29年度社会福祉施設等施設整備費補助金	大館市	平成30年3月20日	144,560	107,500	37,060	大館GHSミズ 大館GHSジョン・グ アウグおおだて	社会福祉施設等施設整備事業（大規模修繕等）に係る経費	
平成29年度公益財団法人日母おさや一献基金施設助成金	公益財団法人日母お さや一献基金	平成30年3月8日	2,231,907	2,231,907	0	障害者センター	児童通所多機能型事業送迎用車両購入事業助成（日産 NV1000リジバ 1台 チャイブ 4WD 1台	
合計			15,977,506	11,957,407	4,020,099			

重点事項の実施状況

1. サービスの質の向上に努めることについて

利用者の「できること」や「思い」に着目した個別支援計画を作成し、計画に沿った支援に努めました。しかし、日常生活の中でニーズの把握につなげる「気づき力」の向上が途上であり、更に職種間で連携して、共通の認識の元、対応ができるようになることが課題です。

また、たん吸引研修に職員を派遣し、たん吸引の必要な利用者に対して安心安全に支援するための専門的な知識と技術の取得の推進を図りました。

2. 業務改善に取り組むことについて

限られた職員数で、効率よく支援を行う事に取り組みました。洗濯業務の一部を夜勤帯に行い、直接支援に当たる日中の支援員を確保することや、スタッフルームを統合し支援員の連携をとりやすくすることなどに取り組みました。今後は、利用者の生活が豊かになるよう利用者の思いを取り入れながら、効率的な支援に取り組めます。

また、昨年度末に実施した福祉サービス第三者評価の中で低評価の項目につきましては、引き続き次年度も改善に向けた取り組みを行います。

3. 利用者の権利擁護に努めることについて

虐待の未然防止を目的に、全職員が共有して不適切なケアの防止に努めました。また定期的に「虐待防止チェックシート」を用いて職員アンケートを実施し支援の振り返りを行ったほか、職員会議やリスクマネジメント委員会などの各種会議を通して、利用者の権利擁護に対する意識の向上を図りました。

4. 職員の業務能力の向上と育成に努めることについて

施設の目標を掲げ、それに合わせて各部門において部門目標を立案し、毎月の達成状況と検証を行うことにより、職員の目標意識の向上と目標管理の推進を図りました。

OJTの推進については、各部門にOJTを推進するためのリーダー、サブリーダーを配置し、業務や目標の進捗状況の確認、新任職員の指導を行い人材育成に努めました。

障害者支援施設 更望園
平成 29 年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1 利用者様の人権と権利擁護について

- (1) 外出や旅行、活動や日常生活全般において、利用者様の希望を伺い支援しました。また、言葉でのコミュニケーションが難しい利用者へは、これまでの生活歴や嗜好を考慮しながら、家族等と相談し、ご本人の意思にできる限り近づけた支援を行いました。興奮や粗暴行為に対して、行動そのものへの対処ではなく、背景を考察し改善することへ取り組みました。
- (2) 利用者様に関する個人情報等について諸規定に則り守秘義務を果たし、正当な理由なく情報開示や話題にしなかった事で、利用者様やご家族からの苦情等はありませんでした。
- (3) 行動障害を有する利用者様に対し、仕切りなどの物理的構造化や活動による時間の把握によって、次の行動の見通しができる様に支援しました。また、身体拘束や虐待等については、リスクマネジメント委員会での確認や家族への説明を行う事で、透明性を担保し進めてきました。

2 利用者様が求める適切なサービス計画の策定について

- (1) 利用者様のできる事、得意としている強みに着目しながら、楽しみや活動、健康について計画・実施しました。
- (2) 最高齢 87 歳、平均年齢 60 歳と重度高齢化が進み、入浴や日中活動の形態を利用者の安全と安心につなげるため隔日としました。また、心身の機能低下にあわせた食事提供や車椅子等の福祉用具を使用する事で、食事や活動への喜びにつなげました。
- (3) 半月に 1 回、または心身の状況に合わせ支援計画作成やモニタリングを行う事で、個々の状況に合った支援を提供することができました。

3 健康・生きがい・楽しみのある生活

- (1) 毎日の検温や血圧測定を実施し体調の確認を行いました。また、定期通院を基本に健康維持を図ることができました。
- (2) 年度当初 3 班での活動でしたが、重度高齢化に合わせた入浴や活動を実施し、屋外活動と趣味や訓練班に分かれ、楽しみや体を動かすことに重点を置いた事で、個別活動の種類や内容が広がりました。
- (3) 利用者様の希望に合わせた外出や旅行、自治会活動を行いました。利用者様からは、希望通り楽しめたと好評でした。

4 良質なサービスの提供について

- (1) 生活支援業務標準や QOL 活動で支援向上アンケートを基にした振り返りを行い、職員が支援の統一や向上を目指す事が出来ました。
- (2) 重度高齢化に対応した支援や活動、環境を提供しました。また、施設入所、短期入所の新規利用者様の受け入れが複数人あり、病気や障害特性、レスパイト等、多様な状態へ対応する事で、家族や他事業所の信頼を得ることができました。
- (3) 第三者評価で苦情相談の仕組みについて、改善するよう求められました。利用者様や家族等から些細な相談でもサービス相談員に報告する事に仕組みを変更しました。上半期にヒヤリハットの報告が少なかったため、職員に気づきと事故の関連性を伝え、意識付けを行った結果、下半期はヒヤリハットの件数が増えています。
- (4) 強度行動障害支援者養成研修（基礎）への受講を進め、特に自閉症支援において理解の深度を深めました。次年度は全職員の受講を図り、個別加算の取得と支援の充実を目指しています。

5 家族との関係について

- (1) 月に1度の電話連絡を基本に、利用者様に変化があった際には都度報告し、情報を共有することで信頼関係の維持に努めました。また、家族会事務局として総会や合同研修会等の会議を支援して参りました。

6 メンタルヘルスケアの推進について

- (1) 衛生委員会を中心に職員状況を把握し、必要に応じて法人相談窓口へ面談を依頼し解決に結びつけました。また、ストレスチェック集団分析から職員のストレス源を集計し、改善策の提案と共に来年度に向けチームを立ち上げました。

7 感染症予防

- (1) 5月にノロウイルスによる胃腸炎の園内感染が発生しました。その後予防策として、自動手指消毒器や次亜水生成器を導入し消毒の徹底を図りました。また利用者の感染症に対する抵抗力をつけるため、年間を通してビフィズス菌の摂取や、緑茶でのうがいを励行しました。
- (2) 職員への感染症に関する研修や手洗いの励行、園内へ持ち込まない事の意識付けの徹底を図りました。

障害者支援施設 鹿角苑

平成 29 年度 事業報告書

第 1 重点事項の実施状況

1 良質なサービスを提供

利用者様ひとり一人のニーズを踏まえた個別支援計画の作成を行い、それを基に個別支援マニュアルの作成を行いました。個別支援マニュアルを活用することで、どの職員が支援を行っても同じ支援になるように、支援の標準化を図りました。これにより、質の高いサービスが提供されました。

日中活動専従の生活支援員を配置し、利用者様の活動の充実を図りました。施設入所付きの生活介護では、散歩、内職、軽作業、機能訓練の4つの班で活動しており、出来るだけ同じ支援員が活動を支援することで、利用者の安心を確保し活動の強化、充実に努めました。

8月から支援員の病欠や退職により、支援員不足が発生し、活動が予定通り行えない日がありました。

2 リスクマネジメントと危機管理の充実

個別支援マニュアル、リスク一覧表等の作成、活用により、利用者様個々の特性やリスクを職員間で共有、把握し事故防止に努めました。また、研修等への取り組みにも力を入れ、介護技術系は12件の研修に延べ56名、虐待防止系は10件に77名が参加し、支援技術の向上を図るとともに人権擁護に対する理解を深めました。

事故については、処遇関係で12件、悠遊工房の製品関係で8件、労働災害事故が1件、車両関係で4件の事故が発生しておりますが、いずれの事故も十分に検証を行い再発防止に努めました。

また、第三者評価の受審、サービス点検調整委員会の開催などを通して、事業所の職員では気がつかないアドバイスを頂き、事業の運営に活用しました。

3 人材育成の強化

最新情報の共有、専門的な支援技術の習得を図るため、施設内研修を6回開催し延べ139人の職員が参加しました。法人本部主催の研修には45件へ92人の職員が参加し、外部主催研修が10件に19名と多くの職員が様々な研修へ参加し研鑽を重ねました。

4 働きやすい環境づくり

誰もが働きやすく、健康で豊かな環境をつくるため、毎月安全衛生委員会を開き、職員の体調面、精神面、長時間労働の有無、労災の有無その他について協議、検討しました。

昨年度より2名の職員がメンタル不調により休職していました。年度初め、1名の職員が離職し、もう1名の職員は9月より復職し、復職プログラム等の実施を行いました。残念ながら離職となりました。

職員の資質と仕事への意欲向上を図るため、人事考課、目標管理を行いました。運営方針である人権の尊重、主体性、安心安全な生活を目標の主題におき、職員一人ひとりがその目標に向かい、日々業務に励みました。

障がい児入所施設 東山学園

平成 29 年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1 小舎の児童入所施設での、安定した生活

小舎という家庭的な雰囲気を大切にし、少人数の生活環境を生かした取り組みとして、一日の生活の流れに寄り添う職員を固定し、例えば学校へ見送る、迎える職員を同じくする等、常に見守る体制をとる事で、児童と同じ時間を共有しコミュニケーションを大切に生活を送ることを心がけました。そして、児童の心の内や変化に早く気付くことのできる関係づくりができました。

小舎内の役割分担や余暇の過ごし方等、ルールを児童主体で話し合い決めることで、「自分たちが決めたルール」として意識し、協調性・自主性を身に付け、自立心を育むことができました。また調理実習や居室掃除、洗濯等々日々の生活に必要な指導を行い、徐々に身に付けることができています。年少児については、日常生活の場面において、食事・排せつ・入浴等・衣類の着脱等々の指導訓練を実施しました。

その他、季節に応じたレクリエーションや、園庭を生かした日々の遊び、地域の駅伝大会参加、また近隣子ども会や住民との交流も積極的に実施する事ができました。今年度 4 名（高等部 3 年生）の児童が卒園し、グループホームへ 2 名、家庭生活へ 1 名、成人施設へ 1 名と卒園後の生活の場所が決まりました。

2 人権の尊重

虐待防止対策委員会（定期）を開催、施設で準備した虐待・不適切ケアに関するセルフチェックを年 2 度実施と、法人としての虐待・不適切ケア・身体拘束廃止計画を基にしたセルフチェックを毎月実施しました。また園内研修において不適切ケアについて全職員に周知しました。事故防止に関しては、児童の特徴・特性についての一覧を作成し、指導職員が指導方法を共通理解することで、事故防止に努めました。

3 人材の育成・快適な職場環境作り

人材育成としては、園内研修、外部講師を招いての研修会の開催、自閉症の先進地研修への参加及び復命研修、法人研修等々に参加し、専門知識の習得ができ、職員個々のスキルアップにつながりました。

メンタルヘルスとして、労働安全衛生法に基づいた「ストレスチェック」と、施設として「疲労度チェック」を年 2 回全職員に実施しました。また困りごとの確認の面談を全職員と実施し、早期相談解決に努めました。年度中、メンタル面で不調をかかえる職員はおりませんでした。

障がい者支援施設 東山学園

平成 29 年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1 ケースマネジメントの充実

施設内の重度化が進む中、利用者様が安心安全な生活が送れるよう、個々の利用者様の希望に沿うような支援を心がけました。日中の支援としては、趣味活動・機能訓練・屋外作業を行ないました。また、余暇支援としては、買い物外出・外食、季節に応じた行事外出等、施設外へ出かける機会を多くしました。

個別支援計画の実施においては、支援上の何らかの課題があると判断した場合は、毎朝の職員ミーティング及びケア会議等で支援方法を早期検討し、課題を解決することで安心した生活を提供しました。

また支援内容の検討の他に、職員（短時間パート）を増員し、利用者様の要望に応えられるよう支援の充実を図りました。

2 人権の尊重

虐待防止対策委員会（定期）を開催、施設で準備した虐待・不適切ケアに関するセルフチェックを年 2 度実施と、法人としての虐待・不適切ケア・身体拘束廃止計画を基にしたセルフチェックを毎月実施しました。また園内研修において不適切ケアについて全職員に周知しました。事故防止に関しては、利用者様の特徴・特性についての一覧を作成し、職員が支援方法を共通理解することで、事故防止に努めました。

3 人材の育成・快適な職場環境作り

人材育成としては、園内研修、復命研修、法人研修等々に参加し、専門知識の習得ができ、職員個々のスキルアップにつながりました。

メンタルヘルスとしては、労働安全衛生法に基づいた「ストレスチェック」と、施設として「疲労度チェック」を年 2 回全職員に実施しました。また困りごとの確認の面談を全職員に実施し、早期相談解決に努めました。年度中、メンタル面で不調をかかえる職員はおりませんでした。

花輪ふくし会 障害者センター

平成 29 年度 事業報告書 要約版

重点事項の実施状況

I 全世代、全対象型支援体制構築～住民周知に向けた取り組みの実施

1、高齢者支援体制と連携した相談支援窓口の積極的運営

1) 法人会議と連動し定例実施とする

鹿角市地域包括支援センター等との会議を開催し、情報共有に努めるとともに支援に結び付けてきました。

2、地域住民周知のための市民セミナーの実施

平成 29 年度は開催することが出来なかったため、次年度へ向けて市民セミナーを計画、実施する予定としております。

3、地域行事、イベントへの積極的な参加

各エリアにおける地域行事やイベントには、下記のとおり積極的に参加しています。

また、事業所・グループホーム関連の自治会行事にも積極的に参加しました。

～参加行事・イベント一覧～

開催日	行事（イベント）名	開催場所
5月5日	はなわまちなかエリア祭り	はなわまちなかエリア
5月5、6、7日	肉×博 肉の博覧会おおだて	大館樹海ドーム
6月10日、11日	小坂町アカシア祭り	小坂町中央公園
6月17日	とわだ新緑祭り（鹿角苑苑遊会）	十和田市民センター
7月12、13日	月山神社祭典	毛馬内 BON 通り
8月7日、8日	花輪ねぶた	鹿角市花輪
8月16日	おおだてエリア祭り	地域生活支援拠点おおだて
8月17日	小坂町だんらん、わいわい祭り	小坂町市日敷地内
8月19日、20日	花輪ばやし	鹿角市花輪
9月17日	鹿角市元気フェスタ	鹿角市役所前広場
9月17日	東北ハイウェイフェスタ	仙台市
10月7、8、9日	大館きりたんぼ祭り	ニプロハチ公ドーム
10月14日	とわだエリア祭り	田口さんの家周辺
10月15日	福祉プラザ祭り	福祉プラザ
11月3日	きりたんぼ発祥祭り	道の駅あんたらあ
11月10日～12日	毛馬内呉服祭り	毛馬内 BON 通り商店街
11月11日	こさかわわいわい祭り	小坂町市日敷地内
3月17、18日	秋田県商品開発プロジェクト お披露目会	秋田市御所野イオン

II 地域生活支援拠点機能の強化

1、鹿角市、小坂町における「親亡き後」の仕組みづくりの提案

鹿角市基幹型相談支援センターを通じニーズ調査を行い、ニーズに基づいた基盤整備を提案しています。

2、「地域生活支援拠点おおだて」事業の周知、安定経営

1) 通所、短期入所利用者の確保

通所利用者の獲得に至らず、目標継続中です。（自立訓練定員 6 名⇒実員 2 名）

大館の事業の周知については関係機関（福祉事務所、教育機関、相談支援事業所等）への挨拶等を実施しPR活動を行っています。

3、関係市町障がい者自立支援協議会への参画、提案

鹿角市・大館市において、地域生活支援拠点整備について両市と協議をしています。鹿角市は地域生活支援拠点整備に伴い、鹿角市障害者センターが平成30年4月1日から鹿角市障がい者総合サポートセンターへ名称が変更されます。

4、相談支援の事業拡大と広域的な連携

大館市に相談支援事業所を開設し、大館市相談支援事業所と定期会議を開催しました。

5、訪問系事業の強化

相談支援事業所を始めとした関係機関と連動し、利用者獲得を行いました。

Ⅲ 社会福祉法人制度改革への対応

1、「地域における公益的取組」の具体的内容の検討、実施

1) 低料金、無償サービスの具体的検討

今年度無年金利用者に対する検討をしましたが、具体的な取り組みに至りませんでした。継続して検討します。

2) 地域の実情に沿った地域貢献事業の検討

子ども食堂等の計画をしましたが、具体的提案、実施にまで至りませんでした。生活困窮者対策については、秋田県から生活困窮者就労認定事業並びに職親の認定を受けました。次年度は、市町社会福祉協議会と連携して積極的に支援を展開します。

2、財務管理体制の構築

1) 予算執行計画の正確性の向上

試算表の早期提出、月次計画の作成を行ってきましたが、分析・経営方針の決定まで至りませんでした。次年度は、分析を行い経営に活かします。

2) 適正な支出管理体制の確立

物品購入伺い伝票作成時、課目の記入等適正な記入の意識付けを行いました。

3) 内部留保の明確化～3ヶ年計画の点検、見直し

毎月の経営分析として、当年度進捗率、前年度対比、計画対比、利用稼働率を毎月の経営戦略会議にて報告し、対応策等を検討しました。

Ⅳ 人材育成の強化と人材確保～人権の尊重、利用者本位の支援環境

1、育成計画の策定、OJTの実施

1) 職員個人、チームによるミッションの提示

2) ミーティング、会議による評価、検証

3) キャリアアップに向けた研修の実施

人材育成にあたる計画としましたが、目標管理、ミーティング等十分実施できませんでした。計画を作成し次年度以降実施します。キャリアアップに向け、法人内研修を主体とし、外部研修にも積極的に派遣しました。

2、人材確保に向けた取り組みの実施

1) 教育機関との連携

① 共同新商品開発～市内高等学校、秋田看護福祉大等

未実施につき次年度に継続します。

② 職場体験、ボランティアの積極的な受け入れ

秋田看護福祉大学や、鹿角市、小坂町、大館市の高校にも働きかけを行っています。

今後は学生ボランティアが今まで以上に参画しやすい受け入れ体制を整備し各種イベント

等を活用し、積極的に受け入れていきます。

2) 高齢者、障がい者雇用の推進

60歳以上の方と新規に6名の雇用契約をしております。また、障がい者雇用は4名の継続雇用があります。

◎障害者センター職員 年代別・障がい者雇用一覧 (人)

H29年度	～29歳	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	65歳～	障がい者	合計
こさか	1	7	9	11	11	14	1	54
とわだ	2	8	13	19	14	25	2	83
はなわ	2	8	10	14	8	15	1	58
おおだて	0	4	9	11	2	6		32
計	5	27	41	55	35	60	4	227
割合 (%)	2.20%	11.89%	18.06%	24.23%	15.42%	26.43%	1.76%	100%

V リスクマネジメントの強化～地域社会、利用者様、ご家族様からの更なる信頼獲得に向けて

1、利用者様支援の質の向上

計画相談と個別支援計画の連動を図るとともに、社会・余暇活動の充実を目標とし、モニタリング等を通じて細かいニーズの調整を図りました。

2、感染症対策の強化

1) 予防体制の強化～消毒液の製造、常時噴霧等の検討

消毒液の製造については、費用対効果を含めた計画の再検討を行います。

2) 障害者センター給食管理体制の強化～栄養士の配置

法人事業計画との整合性が必要なため、調整を検討中です。

3、事故防止対策の強化

職員の意識改革のため、各種会議で危機管理意識を高める取組等を提案しております。

4、就労日中活動事業におけるリスクマネジメントの再点検と具体的取り組み実施

業務フローの作成→確認→実践の徹底、スケジュール管理の徹底を図りましたが、関係職員全員への周知には至りませんでした。日中活動分野において、次年度は、最も強化すべき項目として周知→実践に取組ます。

～就労支援事業における収益と工賃の前年度比～

	平成 29 年度	平成 28 年度	増減
就労支援事業収益	193,060,893 円	207,901,134 円	△14,840,241 円
利用者数 (実員数)	162 名	159 名	3 名
利用者数 (述べ人数)	1,911 名	1,911 名	0
工賃支払い総額	17,418,100 円	16,754,700 円	663,400 円
平均月額工賃 (全体)	9,096 円	8,768 円	328 円
生活介護	7,200 円	7,199 円	1 円
就労継続 B	14,746 円	13,368 円	1,378 円

5、防災、防犯対策の計画定期実施

鹿角市防災マップに基づく防災マニュアルの作成、各拠点における年2回の避難訓練の実施、各拠点への防犯カメラの設置を行っております。

VI 中長期ビジョンの策定～社会福祉の変革期であることから、地域ニーズに基づく中長期計画をイメージする

- 1、国、県関係区市長村 福祉計画の把握、ニーズ、満足度調査の継続実施
平成30年4月1日施行の「改正障害者総合支援法」「障害福祉サービス費報酬改定」に対応する事業計画を検討しております。
- 2、時代の要請（法制度）に適合した新たなサービスの模索
地域生活支援拠点整備、自立生活援助等の事業を検討しています。
- 3、障害者支援事業所における介護保険事業所開設検討
事業推進委員会において検討していますが、計画まで至っていません。
- 4、高齢者、障がい者の見守り、配食事業の検討
 - 1) 対象者の見守り⇒法人就労支援事業所等
 - 2) 配食サービス⇒地域における公益的取り組みとして検討しています。
- 5、精神障がい者に対応した地域包括ケアシステムの構築検討
大館エリアを中心とした対象者の把握、ニーズ調査を行い、具体的方策を関係機関と協議しております。

養護老人ホーム 和光園

平成 29 年度 事業報告

重点事項の実施状況

1. 利用者一人ひとりの生活の質を高めこころ豊かに暮らせるよう支援します。

平均年齢 81 歳、車椅子・歩行器・シルバーカー・杖等使用し自力歩行が困難な方が 49 名で全体の 64%です。高齢化、障害の重複化などにより援助量が増加している状況ですが、その人の持ち得る生活機能が活用されるよう、どうしたら出来るか、見方や考え方を模索し、状況変化に前向きに取り組み、考えを声に出し行動し、工夫につなげた一年でした。園の大きな行事である夏祭りと敬老会については、計画段階よりどうしたら一人ひとりの楽しみにつなげることが出来るかを協議、計画、実施し意見や反省を沢山出し、次年度につなげるようにしました。

日中の活動の一つに園芸活動があります。9月8日に全国老人福祉施設協議会主催の東北ブロック老人福祉施設研究会において『園芸活動による社会性の回復・維持』について、利用者の生き甲斐のサポートについて介護員が発表しました。活動を通しての成果と問題対処への取り組み等を発表する機会を頂いたことで、業務への振り返り、根拠を持って支援することの大切さを学ぶことが出来ました。

また、認知症状がある方への対応として 2 名の方の事例検討（帰宅願望・不穏、暴言）を実施し、安心した生活が出来るよう、組織全体に関わり、関わったことを記録し情報共有しながら良い関わりを模索しました。利用者様と向き合い対応することで、統一した関わり大切さ、気持ちに寄り添うこと大切さを学ぶことが出来ました。今後もより良いケアを提供し、こころ豊かに暮らせるよう支援し、職員のやりがいの向上を目指します。

2. チームおける連携と協働

自立に向けた支援目標を達成するために、科学的介護チーム・障がい支援チーム・ケアプランチーム・リスク管理チーム・食事チームの 5 チームが効果的なサービスの提供に努め、その人の持ち得る生活機能が活用されるよう働きかけを行いました。これまで行って来た介護予防と認知症予防のための学習療法、生活リハビリ、介護予防体操、フットケア、口腔ケア、水分ケア、園芸活動、動物介在活動等、個別ケアが定着しつつあります。今後も各チームの役割と目標を明確にし抱える課題や周知すべきことなどを随時会議で発信、検討し、5 チームがともに協働、連携し、お互いの専門能力を活用した効果的なサービスの提供、総合的な援助を行い、生きがいを持ち生活ができるよう働き掛けを行います。

3. 社会資源としての養護施設

比内支援学校かづの校の生徒さんが毎月訪問し、実習や交流場面として活用して頂いています。

花輪第一中学校の生徒さんの訪問による合唱では素晴らしい歌声を鑑賞出来、多数の方が喜ばれておりました。冬季には園外周や中庭の除雪をして頂き、利用者様が自分の孫を見るかのように笑顔で見守っておりました。若い力に感謝の思いと生徒さんに施設を見ていただける機会にもなっております。

また、今年度は多くの短期入所の受け入れを行いました。罹災した親子の緊急入所や、虐待の疑いによる緊急の入所も数件ありました。行き場の無い方を可能な限り受け入れました。他、病院からの退院後、自宅で生活できるように生活リハビリを兼ねた利用も数件ありました。今後も、地域のセーフティーネットとしての機能を発揮し、環境上も、経済的にも、困っている高齢者や家族を支え、地域福祉の向上に努めます。

4. 支援体制の再構築

平成27年度の制度改正により養護老人ホームでも一般型が可能となり、選択肢が増えました。現状の特定施設入居者生活介護を外部型から一般型へ変更することで出来高払いから、包括収入となるため、収入増及び安定した収入の確保につながることで、配置基準より看護師等が増えること、また生活機能の改善や維持のための機能訓練を行わなければならないことから、機能訓練指導員の配置が必要となり、利用者様へこれまで以上の生活向上のための関わりが可能となります。多様化するニーズに応え、利用者様の満足度を高め、職員のやりがいの向上を目指すことを目標とし新年度より一般型へ変更します。

5. 職員の質の向上及び職場環境の向上

人材を「人材」と捉え、花輪ふくし会人材育成計画及び人材育成 OJT マニュアルを全職員に配布し、人材育成に取り組みました。現在、精神障がい者、知的障がい者、身体障がい者、認知症高齢者、被虐待高齢者といった様々な高齢者が入所されており、専門的知識や技術の習得が求められており、良質なサービスの提供のため積極的に施設外研修への派遣、施設内研修会を開催しました。

職場環境の向上については、毎月の衛生委員会にて危険個所の確認を行い環境整備に努めました。運営経営会議では『気づき』の発信から、機器や環境の工夫等行いました。

特別養護老人ホーム 東 恵 園
地域密着型介護老人福祉施設 月山の郷
地域密着型介護老人福祉施設 鹿南の郷

平成 29 年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1. ケアマネジメント機能を強化し、施設サービスおよび個別援助計画に基づいたサービス体制の充実について
 - ・介護支援専門員を配置し、入居者一人ひとりの施設サービス計画書を作成し、計画書に基づいたサービス提供を行ってきました。入居者、家族、施設専門職種によるサービス担当者会議を開催し、入居者、家族の意向を反映した計画になるよう配慮してきました。
 - ・サービス提供にあたり、3 ヶ月毎にモニタリングや再アセスメントを実施し、入居者の状況に応じたサービス提供体制を実施しました。
 - ・認知症デイサービスでは、利用者ごとに居宅サービス計画書と連動した個別援助計画書を作成し、計画書に基づいたサービス提供を行ってきました。

2. 利用者および家族の意向を尊重し、医療関係者や施設内専門職種の協働による看取りケアについて
 - ・入居者および家族の看取りについての意向を確認し、医師および施設専門職種が看取り指針に基づいた看取りケアを実施しました。

3. 口腔および栄養管理の取り組みの強化について
 - ・栄養マネジメント委員会を毎月開催し、入居者の栄養状態を把握し、低栄養の予防と栄養改善に取り組んできました。
 - ・経口摂取をすすめ、口腔内衛生管理や口腔体操等を取り入れてきました。

4. 認知症ケアの専門性を高め、認知症状に応じたケアの実施について
 - ・認知症ケア委員会を毎月開催し、入居者毎の認知症状を把握し、対応マニュアルの見直しを実施しました。
 - ・くもん学習療法を強化するために、職員への研修を実施してきました。
 - ・認知症への理解を深めるために、認知症テキストや事例集を配布し、職員のレベル向上に繋げてきました。

5. 利用者の健康維持および機能訓練向上について
 - ・入居者の健康状態を細かく把握し、体調不良の早期発見、早期対応により、重症化を防ぎ入院の減少に繋げてきました。
 - ・床ずれゼロを目指し、看護師を中心として床ずれの改善をはかり、床ずれゼロを達成しました。
 - ・おむつゼロに取り組み、水分摂取・排泄・運動・常食の自立支援介護を継続してきました。
 - ・施設サービス計画書と連動した機能訓練計画書を作成し、PT 等の指導のもと、機能維持向上を図ってきました。

6. 資格取得や研修への参加による職員の専門性およびサービスの質の向上について

- ・職員個々に資格取得や研修参加等の研修計画を作成し、一人ひとりが目的意識を持ちながら専門性を高める体制づくりをすすめてきました。
- ・外部研修、法人内研修や施設内研修への参加を促し、専門知識や技術の取得に繋げてきました。
- ・介護支援専門員の資格には、1名が合格しました。

7. 家族や地域住民との繋がりを強化し、地域に開かれた施設づくりと地域に貢献する施設づくりについて

- ・運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域住民やボランティア等との関係強化を図ってきました。
- ・地元子ども会や学生ボランティア、奉仕ボランティア、演芸ボランティア等を積極的に受け入れ、ボランティアの発掘と養成に努めてきました。
- ・家族会は、施設行事への参加や協力も増え、施設への理解が深められてきました。
- ・認知症カフェの開催にあたり、地元住民や医療・福祉関係者より実行委員として協力が得られています。

東恵園地域生活支援センター

平成 29 年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1 地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み

(1) サテライト型小規模多機能型居宅介護事業所の開設・運営

毛馬内地区においてサテライト型小規模多機能型居宅介護事業所「多機能サービスたぐちさんの家」を開設しました。登録定員 18 名のところ、4 月 12 名から始まり、10 月には 17 名まで伸び、年度末には 18 名の登録でした。今後も地域に密着した支援体制を構築しつつ、来年度も 17 名以上をキープし安定経営を目指します。

しかし、本体である「多機能サービスかみはなわ」は登録定員 25 名のところ、10 月 17 名までの伸びしかありませんでした。4 月 18 名でスタートしたものの、登録終了者が年度中に 23 名もいたのが大きな要因と考えられます。登録者が伸び悩んでしまった要因を分析・改善策を職員全員で確認し、来年度で挽回していきます。来年度中には登録者 23 名以上を目指します。

(2) 3つのエリアの充実と地域貢献

当センターの既存のエリア「東山エリア」・「はなわまちなかエリア」に加え、「たぐちさんの家」の開所に伴い「けまないらくらくエリア」の充実を図ることができました。特に十和田地区では地域行事等でのつながりができ、地域に根ざした福祉施設として PR できました。

また、毎月の経営会議の場で、組織としての安定・継続的な経営を目指すことへの意識付けはもとより、社会貢献・地域貢献活動にも取り組んでいます。今年度、グループリビングでは空きが出ることはありませんでした。多世代交流スペースにおいては 365 日、地域住民の集いの場として開館しています。「まちっこ」は 1 日平均 23.8 人、「どまっこ」では 1 日平均 19.25 人でした。

(3) 介護・認知症予防活動の強化

地域の介護予防の取り組みとして「ゆうゆうクラブ」「地域生き生き元気塾」を継続し受託・運営しました。

また、鹿角市認知症カフェ補助金申請の認可により、毎月第 1 土曜日に「まちっこカフェ」を開催し、220 人を超える地域住民へ認知症予防等についての啓発に向け取り組みました。

2 自己選択・自己決定の支援

各事業所においては、日常生活の中に「日常生活動作リハビリ」の視点を強く意識し、自立支援・重度化防止のサービスを提供しました。特にデイサービスでは、利用者から選択してもらえよう多種多様な訓練メニューを揃え、利用者が明確な目的をもってサービスを利用できるよう自己決定を支援しました。

また、デイサービス・ヘルパーの介護予防・日常生活支援総合事業では、利用者が自分でできることを増やすための考え方（介護予防ケアマネジメント）と連動させることを意識し、日常生活の自立に向けた支援を行いました。

3 職員の資質向上への取り組み

「たぐちさんの家」の開所に向けて昨年度末から新規雇用に動き、合計6名増の職員で年度をスタートさせました。年度内では、補充等のため、さらに6名の職員を雇用しました。新任職員研修や法人が実施する各種研修の受講もさることながら、事業所ごとに実施する勉強会等にも力を入れ、良質な職員の育成に努めました。

また、6月・12月実施の自己評価、10～11月実施の「満足度調査アンケート」における利用者や介護者からの意見・要望、隔月開催の「運営推進会議」における外部評価、マニュアル整備、法人の目標管理シート等を取り入れながら、職員への随時の個別指導や全職員向けのスキルアップ等、職員の資質向上に取り組みました。